

学校と企業、双方から協力していただくことで、「地域ぐるみ」で、子どもたちのよりよい学びにつなげたい

企業を訪問し、職場体験の受入可能な事業所リストを作成し、学校に提供したところ、大変好評をいただきました。業種によっては、中学生に体験させられる業務がないので受入は難しいと答える事業所もありますが、訪問して職場体験の目的や他事業所の実践内容を伝えると「こんな方法なら受け入れられるかも」と言ってくれることも多々あります。実際に訪問し、時間をかけて受入先を開拓でき、その際にどのような体験が可能かしっかり調整できることが強みだと思っています。

久慈市の企業は、地域のためにも求められれば協力したいという意識が高いと思います。地域の将来を危惧して、また社会貢献の一環として積極的に学校に関わりたいたいという声がある一方、「学校と連携するための方法がわからない」とか「体験をどう受け入れればいいのかわからない」といった声も聞かれます。このため、情報共有の場として、職場体験向上セミナーなどを実施し、教職員と企業関係者の意見交換を行っています。企業が持つ力を、教育に最大限活用していくためにも、積極的に参加してほしいと思います。

職場体験は、これまで学校が単独で企業と連絡・調整を行い実施してきましたが、双方にとって負担が大きいのではないでしょうか。協議会が仲介役になることで互いの負担を減らしながら、よりよい活動にしていくことができると考えています。「地域ぐるみ」の枠組みは、継続的に利用してもらうことで、より有効なものとなっていきます。子どもたちのよりよい学びのためにも、学校と企業双方に積極的に協力していただければと思います。



キャリア教育支援員

佐々木 由美子さん

■夏井中学校 職場体験事前・事後学習 (講師紹介の事例)



職場でのあいさつを練習する生徒たち

夏井中学校では、6月17日、職場体験学習の事前学習を行いました。講師を務めたのは、ジョブカフェ一関でキャリア教育支援を行っている金野馨センター長。体験を控えた生徒たちが、職場でのあいさつの仕方など体験中のルールやマナーを確認した他、職場体験を通じてどのようなことを学ん

でくるかを考えました。

9月6日には、事後学習の一環として、受入企業を招待し体験の成果をまとめた発表会を開催。生徒全員が、体験した仕事や学んできたことを発表しました。また、併せて、今後のよりよい体験活動につなげるために、参加した受入企業と意見交換を実施しました。

■侍浜中学校 進路学習講座 (講師紹介の事例)

侍浜中学校では、地域で働く人々を講師に、仕事を通じたこれまでの生き方や仕事への思いを聞く学習講座を昨年からは実施しています。11月2日、医療・福祉・美容師・保育士・調理・製造業・林業など9つの職業の講座が開講され、生徒たちは2種類を選択して受講しました。銀行と公務員の

講座を受けた生徒会長の谷崎圭祐さん(3年)は「講師の先生たちの中学・高校時代の話聞いて、自分も進路についてしっかり考えなくてはと実感しました。私は将来もここで暮らしていきたいと考えているので、地元で働く人の話を聞いて、これからの進路選択の参考になりました」と話しました。



実演を交えながら調理の仕事を紹介

「地域の力」を活かせる協力体制づくりを目指す

「地域ぐるみ」での次世代育成を目指し、キャリア教育への協力体制づくりを進めているキャリア教育推進協議会。その概要や取組、支援を行った事業などを紹介します。

中学校段階のキャリア教育で学校と企業の連携手法を模索

久慈市キャリア教育推進協議会(以下、協議会)は、企業支援などを担う産業経済部と、学校を所管する教育委員会をメンバーとして平成27年度に設立しました。現在は、NPO法人やませデザイン会議が委託先となり、キャリア教育支援員1人を配置して学校が行うキャリア教育の支援を行っています。

現時点では、中学校段階のキャリア教育を対象に「どのように学校と企業が連携していけるか」という産学連携手法の調査や試行、また企業に対する普及・啓発活動や情報交換を主な活動としています。



夏井中学校1年生が毎年行っている農業体験。学校近くの水田で田植えや稲刈りなどを体験します

教育の枠組みづくりを推進し地域ぐるみで子どもを育てる体制

市内の学校で実施されている、職場体験学習をはじめ、企業・工場見学、出前講座、農業体験・自然体験・販売体験など特色ある活動。これらの活動に学校・企業・家庭・住民など、子どもたちを取りまく「地域」が、これまで以上に積極的に関わっていくことが、次世代の地域の担い手育成につながっていきます。

また、キャリア教育本来の目的を達成するためにも、地域の持つ教育的価値を最大限に利用することが欠かせません。協議会では、小学校から高校までの各段階に応じた、キャリア教育支援策の検討を進めることで、将来的に「地域ぐるみ」でキャリア教育を支援していける枠組み、協力体制づくりを目指しています。

◇協議会で実施している取り組み◇

■受入型のキャリア教育に対する支援

中学校の職場体験学習や高校生の企業見学会などをサポートしています。

中学校の職場体験学習は、これまで学校が独自に体験先の確保を行ってきましたが、実施には数十の事業所との連絡・調整が必要で負担が大きいことから、協議会が受入可能な事業所の確保や、体験可能な職種の新規開拓などを行い、受入先企業リストを作成して学校に提供しています。

■出張型のキャリア教育に対する支援

講演会など、学校に講師が出向いて行う形式のキャリア教育に対する支援として、講師の紹介や、地域の職業人による出前講座のコーディネートなどを実施しています。

■キャリア教育に関する状況調査

学校や企業を訪問し、情報交換を行っているほか、職場体験に関するアンケートなどを実施して、実態の把握や改善に向けた取り組みを進めています。

■地域の企業に対する普及・啓発活動

「どのような取り組みをすれば、職場体験の目的達成に近づけるのか」「受入の際にどのような準備が必要なのか」といった声を受けて、企業向けの研修会などを実施しています。今年度は、久慈広域4市町村が参画する県北広域振興局「久慈地域キャリア教育研究会」と合同で中学生の職場体験受入に関する勉強会を開催し、約20企業が参加しました。

■学校と企業の情報交換を支援

企業側の「学校とどのように連携すればいいのかわからない」というギャップを解消するために、学校教職員と企業関係者が情報交換できる場として、合同でセミナーなどを開催しています。



6月16日に県北広域振興局と合同で開催した企業を対象とした勉強会